



手城小だより

福山市立手城小学校
2024年(令和6年)
6月10日(月)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

ようこそ先輩！ ～未来へのヒントに出逢う～

今年度も、「ようこそ先輩！～未来へのヒントに出逢う～」と題して、多くの方のお力をいただき、キャリア教育を進める授業を実施しています。

- ねらい 保護者や地域の方など身近な大人から仕事やこれまでの経験、これからの夢や目標について話を聴いたり実際に体験したりすることを通して、働くことや夢をもつことの大切さを理解し、これからの生き方につなげようとする意欲や態度を育てる。
- 内容 「この仕事についてみようと思ったきっかけ」「夢や目標」
「仕事の楽しさ、喜び、大変さ」「これまでの人生での経験」「震災体験」
「戦争体験」「海外での経験」「楽器演奏」「本の紹介」など

身近にいるカッコいい大人や素敵だなと思える大人に出逢うことで、自分の生き方について考え、「こんな大人になりたい」「自分もこんな風に生きたい」と目標を持ったり、夢や生きる勇気を持ったりするきっかけになればと思っています。

福山空襲から学ぶ 一悲惨な戦争を繰り返さない一



6月6日(木)4年生が福山人権平和資料館副館長の寺地靖仁様を講師にお迎えし、福山空襲について学びました。

1945年(昭和20年)7月31日の夜、B29が飛来し、空襲予告ビラ約6万枚を散布しました。

その8日後、8月8日22時25分、B29が襲来し、約1時間にわたり焼夷弾を投下しました。

雨のように降り注いだ焼夷弾は福山の町を焼き払いました。そして、福山空襲からわずか7日後の8月15日、戦争は終わりました。

戦争体制下では、働き手は女性と子どもで、子どもたちは学校で勉強をさせてもらえず、ほとんど農作業をさせられていたことや、寺の鐘までも政府に引き渡すなど、戦争優先の生活を送っていたことを写真を見せながら話していただきました。

また、福山市は空襲の目標となった軍事施設があったことや、中央図書館にある母子3人像は人の形をしたお墓であること、戦争は亡くなり方がとても残酷であることを話されました。

最後に寺地先生が「戦争は全部の命を一度に失います。みんなのひいじいちゃんやひいばあちゃんたちが戦争で命を守ってくれたから、みんなの命が奇跡的につながっています。だから命を粗末にしないでください。自分の命も他人の命も大切にしてください。」と語られ、子どもたちは、真剣に聞いていました。

校内授業研究 ―授業が変われば子どもが変わる―



本校では、子どもたちの考える力や自己決定する力をつけるために、よりよい授業になるよう、全職員で授業を見合い、日々研鑽しています。

5月10日（木）6年2組「道徳」、5月31日（木）3年3組「算数」、6月5日（水）4年2組「道徳」の研究授業を行い、職員全員が授業参観をし、考えを広げ深める授業になっていたか、協議を行いました。

特に道徳では、鳴門教育大学大学院教授の金野誠之先生や福山市教育委員会学びづくり課、佐々木美帆指導主事を講師としてお招きし、具体的な指導助言をいただきました。

私たち指導者は、「ほめて認めて励ます」という道徳教育の視点で授業をする上での大切な7つのポイントをかかげています。そして、その大切なポイントが授業の中で生かされていたかどうか検証しながら、子どもたちの自己効力感や学力の向上を目指しています。

「授業が変われば、子どもが変わる」ことを実感しながら、これからもよりよい授業づくりを行います。

保護者の皆様には、研修の日には、子どもたちの下校時刻が早まるなど、ご協力をいただいています。心より感謝申し上げます。



第13回てしろばら祭り ―合唱クラブ歌声披露―



5月26日（日）第13回てしろばら祭りが手城交流館で開催されました。

合唱クラブが「春の小川」「ビリーブ」の歌を披露しました。「ビリーブ」は会場みなさんと一緒に歌いました。アンコールでは「こいのぼり」を歌いました。祭りに来られた地域の方から盛大な拍手をいただき、とても温かい気持ちになりました。

手城の子どもたちは、地域に育てていただいていることを実感した日でした。